

北見工業大学学報

第 248 号 (2011 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 23 年度秋季大学院入学式を挙行……………	2
研 究 助 成	平成 23 年度共同研究の受入状況……………	3
	平成 23 年度受託研究の受入状況……………	3
	平成 23 年度奨学寄附金受入状況……………	3
人 事	人事異動……………	4
受 賞	未利用エネルギー研究センター、八久保晶弘准教授が 2011 年度日本雪氷 学会論文賞を受賞……………	5
諸 報	国立大学フェスタ 2011「北見工大図書館ガイドツアー」を開催……………	6
	父母懇談会(秋季・北見、札幌、東京)を開催……………	7
	消防訓練の実施……………	8
	日本政策金融公庫旭川支店との産学連携の協力推進に関する覚書締結……………	9
	財務諸表等の開示……………	10
	道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を開催……………	10
	平成 23 年度防災・日本再生シンポジウムを開催……………	11
	平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式……………	12
	地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	13
	大学院進学説明会を開催……………	14
計 報	森訓保名誉教授……………	15
日 誌	10 月・11 月……………	16

= 入学式 =

平成 23 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成 23 年度秋季大学院入学式が、10 月 3 日（月）午前 10 時から、本学第 2 会議室で行われました。

学長から、留学生を含む 6 人の入学が許可された後、学長式辞、役職員等の紹介が行われました。

入学者は下表のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械システム工学専攻	1

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	1
医療工学専攻	4



式辞を述べる鮎田学長

入学が許可された新入生



= 研究助成 =

平成23年度共同研究の受入状況

平成23年11月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機械工学科	教授	山田 貴延	消火ガス発電排熱有効利用に関する研究	北見市企業局
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	低温バリア絶縁膜に関する研究	株式会社富士通研究所
地域共同研究センター	教授	有田 敏彦	極寒冷地における各種がいの着氷雪条件下での絶縁特性向上に関する調査研究	日本碍子株式会社 電力技術研究所
マテリアル工学科	准教授	宇都 正幸	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	ホクレン包材株式会社
機器分析センター	講師	大津 直史	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	独立行政法人物質・材料研究機構
社会環境工学科	教授	高橋 清	電気自動車の普及促進と電気自動車を活用した地域振興に関する研究	パシフィックコンサルタンツ株式会社
地域共同研究センター	センター長	川村 彰	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	北見市企業局

平成23年度累計66件

平成23年度受託研究の受入状況

平成23年11月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
					円
サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	特任教授	山岸 喬	タマネギ、ダイズのケルセチン・イソフラボンの分析技術の開発、および加工・調理中の成分変化の調査	京都府立大学法人 京都府立医科大学	3,000,000

平成23年度累計 9件

平成23年度奨学寄附金受入状況

平成23年11月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
					円
社会環境工学科	教授	中山 恵介	水文・水資源学に関する研究助成	水文・水資源学会	150,000
	学長	鮎田 耕一	奨学研究費	太平洋セメント株式会社	300,000
地域共同研究センター	センター長	川村 彰	オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 地域共同研究センター推進協議会	1,680,000
自然エネルギー実験室	准教授	三木 康臣	真空平板集熱器に関する屋内試験に対して	矢崎資源株式会社 環境システム開発センター	80,000
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000

平成23年度累計33件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
23. 10. 1	工学部准教授	山田 貴延	工学部教授
〃	工学部助教	舘山 一孝	工学部准教授
〃	技術部大学運営支援室情報処理支援 グループ開発運用係技術員	宿院 信博	技術部大学運営支援室情報処理支援 グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理支援 グループ情報処理係技術員	松本 正之	技術部大学運営支援室情報処理支援 グループ技術専門職員



= 受賞 =

未利用エネルギー研究センター、八久保晶弘准教授が

2011 年度日本雪氷学会論文賞を受賞

(未利用エネルギー研究センター)

このたび、本学未利用エネルギー研究センター准教授の八久保晶弘先生が、社団法人日本雪氷学会より 2011 年度論文賞(学会賞)を受賞されました。

日本雪氷学会は、雪氷学についての発表・知識の交換・情報の提供ならびに国内・国外の関係学会との協力によって、雪氷学の進歩を図り、学術の振興に寄与することを目的として設立された学会です。本学では多くの正会員が日本雪氷学会に所属し、活躍しています。論文賞は、「雪氷学の発展に貴重な貢献となる論文」の著者である正会員に与えられる学会賞です。

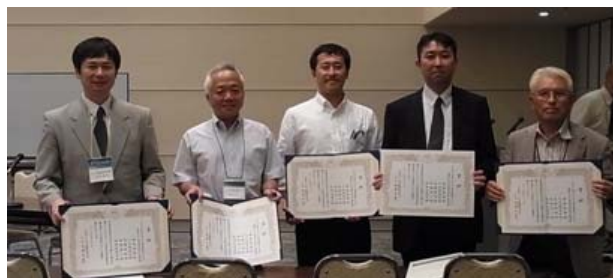
今回は、八久保准教授が共著者の一人である論文「しもざらめ雪・あられ・降雪結晶からなる弱層のせん断強度変化の観測」が論文賞に選出されました。この研究は、表層雪崩の滑り層の原因として知られる弱層について、特にしもざらめ雪に着目し、野外観測においてその気象学的生成条件を明らかにし、形成後のせん断強度変化を合わせて調べたものです。

積雪中には力学的に弱い層(弱層)が存在します。斜面で弱層が破壊されると表層

雪崩を引き起こすため、弱層の形成条件についてこれまで多くの研究がなされてきました。一方で、弱層は積雪中に埋没すると強度が増加していきます。その増加速度や、雪質による違いについてはデータが少ないのが現状です。

本研究では、札幌で2冬期間にわたり毎日観察された弱層の形成過程と埋没後の変態過程から、せん断強度が増加していく様子を定量的に捉えました。北海道東部では代表的な雪質であるしもざらめ雪(積雪中の温度勾配が水蒸気輸送を生じ、再結晶してできたもろい雪質)は、弱層としては比較的長期間にわたり強度の小さい状態が保持されることもわかりました。八久保准教授は積雪断面観測と気象観測を担当し、主著者の海原拓哉氏が実施した弱層のせん断強度観測データの解釈を強力にサポートしました。これらの知見は、表層雪崩予測モデルの基礎であり、近い将来における雪崩予報・注意報の実現を促す成果と言えます。したがって、今後の雪氷学の発展に貢献した研究として日本雪氷学会に認められ、受賞に至ったものです。

受賞論文：海原拓哉・八久保晶弘・尾関俊浩・西村浩一・秋田谷英次「しもざらめ雪・あられ・降雪結晶からなる弱層のせん断強度変化の観測」, 雪氷, 73(2), 133-142.



授賞式にて、共著者全員での記念写真

= 諸報 =

国立大学フェスタ 2011「北見工大図書館ガイドツアー」を開催

(情報図書課)

9月26日(月)から10月7日(金)まで、国立大学協会の主催する国立大学フェスタ2011の一環として、市民の方を対象に「北見工大図書館ガイドツアー」を開催しました。このツアーは教員や学生だけでなく、市民の方も本学の図書館を利用していただけられることを広く知ってもらうために企画したものです。期間中、土日を含め毎日11時と15時からの2回ずつ開催しました。

職員が実際に図書館の中を案内しながら、設備や蔵書構成、そして本の探し方を紹介するという約20分間のガイドツアーです。当日の新聞の閲覧や飲食もできるコミュニケーションホールの紹介、図書館利用証を使った入館ゲートの通り方、配置場所毎の

図書・雑誌の紹介、そしてOPAC(蔵書検索システム)を使用した本の探し方や利用上の注意点を紹介していきました。

「経済の伝書鳩」「読売新聞」「北海道新聞」にも紹介記事が掲載され、37名の方に参加していただきました。参加された方からは、「大学の図書館が一般の人でも利用できるとは知らなかった」「専門書だけでなく、文学関係の図書や一般の雑誌もあるのは嬉しい」「放送大学の教科書やDVD等のAV資料も利用してみたい」「英語の多読資料(簡単な英語で書かれた絵付きの薄い本)を是非使ってみたい」といった声をいただきました。



ガイドツアーの様子

父母懇談会（秋季・北見、札幌、東京）を開催

（学生支援課）

例年開催している「父母懇談会（秋季）」を、北見会場は10月1日（土）本学講堂、札幌会場は10月15日（土）北海道大学学術交流会館、東京会場は11月19日（土）学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

北見会場には、69組93名の父母が参加し、全体説明会において鮎田耕一学長の挨拶、近藤和雄学生後援会会長の活動状況報告があった後、田牧純一副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。また、会場前においては、大学認定商品の菓子「雪まりも」の他、大学関連グッズの販売を行い、参加した父母からは大変好評を得ています。

札幌会場には、91組122名の父母が参加し、全体説明会において、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、近藤学生後援会会長から後援会の活動状況が報告されました。

東京会場には、76組100名の父母が参加し、全体説明会において、田牧副学長から札幌会場と同様の説明がありました。また、谷浩二同窓会関東支部長から同窓会の活動状況が報告されました。

札幌、東京いずれの会場とも、個別面談では、修学状況、就職等について父母から質問が出され熱心にやりとりが交わされました。また、全体説明会の後、個別面談までの待ち時間には、田牧副学長が父母からの質疑に応答する時間を設け、大学生活、生活環境、就職及び大学院への進学など多岐に亘り質疑応答が行われました。



個別面談の様子（札幌）



全体説明会の様子（東京）

消防訓練の実施

(施設課)

10月25日(火)、本学社会環境工学科2号棟を仮想火元とした消防訓練を実施しました。

訓練は学生及び教職員あわせて約100名が参加し、北見地区消防組合消防署の指導の下、4階研究室のストーブから出火したという想定で第一発見者である学生からの通報、学科教員による初期消火、避難誘導および残留者の確認、負傷者の搬出という流れで行われ、建物内からの避難は10分ほどで完了しました。その後、はしご車による屋上からの避難や屋内消火栓を使った放水訓練、消火器の取り扱いについての指導があり参加者たちは積極的に訓練に参加していました。

訓練終了後、北見地区消防署 岡田副署長から訓練内容について、概ね良好との講評をいただきました。

講評にあわせて東日本大震災に触れ「地震が発生した後、多くの人が大したことはないだろう、自分は大丈夫だといった思い込みにより甚大な被害が発生してしまいました。災害に対しては常に最悪の想定をして行動してください。また災害が発生した時に被害をゼロにすることは困難ですが自助・互助・公助によって減災することは可能です。いざという時には周囲の人達と協力するようお願いいたします」と参加者に向けて協力依頼がありました。



はしご車で屋上から避難する学生



屋内消火栓からの放水訓練



消火器の取り扱い訓練



講評を受ける参加者

日本政策金融公庫旭川支店と産学連携の協力推進に関する

覚書締結

(研究協力課)

本学地域共同研究センターは10月18日(火)、同センターにおいて株式会社日本政策金融公庫旭川支店との間で「産学連携の協力推進に関する覚書」の調印を行い、川村彰センター長と川又一三支店長が覚書を取り交わしました。

この覚書は、相互に協力して本学の研究成果等を地域社会に一層円滑に還元し、緊密な情報交換等を行うことにより地域の産

学連携を推進することで、地域社会の発展に貢献することを目的として締結したものです。

地域企業の技術ニーズ情報及びそれらに対する本学の研究シーズ情報を交換して新たな連携の創出を図る他、本学が有する知的財産の有効活用や大学発新事業の発掘・支援等における連携により、産学連携がより一層推進されるものと期待しています。



覚書を取り交わす川村センター長(左)と川又支店長(右)

財務諸表等の開示

(財務課)

国立大学法人法に基づき、平成23年10月14日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成22(第7期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を、本学ホー

ムページ(http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/22.html)に登載しましたので、お知らせします。

道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を開催

(総務課)

10月26日(水)、本学が当番大学として道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を本学第2会議室で開催しました。15回目を迎える本懇談会は、高等専門学校及び工学系大学が抱える共通の諸課題について協議するとともに、広く意見及び情報の交換を行うことを目的として開

催されており、懇談は6つの話題をテーマに行われました。

本学の取り組みについて、田牧純一副学長から現状報告が行われ、各高専・大学からも特色ある取組内容の紹介があり、活発な意見交換が行われました。



各高専・大学の諸課題について協議を行った懇談会

平成 23 年度防災・日本再生シンポジウムを開催

(総務課)

11月18日(金)、国立大学協会との共催で、防災・日本再生シンポジウム「寒冷地の複合災害－豪雪と大地震が同時に来たら－」を開催しました。

このシンポジウムは、3月11日の東日本大震災を教訓とし、講演およびパネルディスカッションを通じて、オホーツク地域を大規模地震および豪雪等の複合災害が襲った場合の防災対策を再確認することを目的とし実施したものです。

シンポジウムでは、防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの佐藤篤司研究参事の「豪雪と地震」と題した基調講演及び、帯広畜産大学の宗岡寿美准教授、日本赤十

字北海道看護大学の尾山とし子准教授、東京農業大学の黒瀧秀久教授、本学の山下聡教授、高橋修平教授、高橋清教授の6名から、農業、医療、漁業、工学のそれぞれの専門分野から防災対策について講演いただき、行政機関や企業関係者をはじめ、市民・学生など約100名が参加しました。

さらに、パネルディスカッションでは、北見市防災対策・危機管理課の千田久幸係長も参加し、防災対策について活発な意見交換が行われ、防災マップの重要性や、複合災害には大学・北見市・市民・学生等が複合体で総合的に対応しなければならないとの提言がありました。



講演する佐藤防災科学技術研究所
雪氷防災研究センター研究参事



パネルディスカッションの様子

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式

(総務課)

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が 11 月 22 日（火）午前 11 時から第 1 会議室において挙行されました。

鮎田耕一学長から被表彰者に対し、表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、下表のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者（50 音順）

30 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
堂 田 誠 治	技術部
中 西 喜美雄	技術部
布 川 裕	技術部
早 川 博	社会環境工学科
藤 田 美代子	企画広報課

20 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
阿 曾 正 浩	共通講座
遠 藤 登	機械工学科
亀 田 貴 雄	社会環境工学科
川 村 武	電気電子工学科
武 山 眞 弓	電気電子工学科
遠 国 秀 昭	技術部



地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(研究協力課)

11月28日（月）、北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を本学で開催しました。本会議は、北海道、特にオホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱して、産学官連携に関する協議・情報交換等を行っています。

今年度は「地域資源を活かした『ものづ

くり』の取組の動向」をテーマとして北海道オホーツク総合振興局が開催するオホーツク地域経済活性化検討会議と初めて合同で開催し、多くの関係者が出席する中、各自治体からは地場製品の紹介や地域資源の活用事例の報告等があり、各大学からは人材育成事業等の地域との連携事例や活動報告、包括連携協定締結機関や公的機関等からは事業促進のための補助事業等の情報提供がありました。



会議の様子

大学院進学説明会を開催

(入 試 課)

平成 23 年 11 月 30 日 (水)、学部 3 年次学生及び希望者を対象として、大学院進学説明会を開催しました。

本学大学院工学研究科博士前期課程では、平成 25 年度入試において募集人員及び選抜方法等の変更を予定しています。今回の説明会では入試課職員から変更後の募集人員や選抜方法、スケジュール等につ

いて説明し、107 人の参加者が熱心に耳を傾けていました。

なお、平成 24 年度大学院入試 (第 2 次) の出願期間は平成 24 年 1 月 16 日 (月) から平成 24 年 1 月 20 日 (金) までとなっています。受験希望者は期間中に必要書類を入試課まで提出してください。



入試課職員による説明



説明に聞き入る参加者たち

訃報

(社会環境工学科)



本学名誉教授森訓保先生は、平成 23 年 9 月 25 日午前 7 時 44 分、心不全のためご逝去されました。享年 69 歳でした。ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

葬儀は、札幌市中央区のあいプランやわらぎ斎場 センティア 28 にて、ご本人およびご家族のご希望により、宗教色にとられない自由葬の形式でしめやかに執り行われ、本学の方々からたくさんの御香典、花輪等を頂戴いたしました。本紙面をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

森先生は、昭和 47 年 4 月に北見工業大学開発工学科助手として、北海道大学工学部から赴任され、昭和 50 年 4 月に北見工業大学工学部講師（開発工学科）、昭和 52 年 4 月に同助教授、昭和 54 年 4 月に同教授に昇任されました。その後、平成 5 年 4 月に大

学改組に伴い土木開発工学科教授となられ、平成 19 年 3 月に定年退職された後、直ちに名誉教授となられました。

この間、先生は多くの学内委員会委員を歴任されるとともに、北見工業大学生協の理事長としてその管理運営に尽力されました。また、先生は 36 年の永きに亘り、掘削工学、地下空間工学などの教育・研究に努め、多くの技術者・研究者を養成するとともに、多くの論文を発表し、日本鉱業会奨励賞や 2 度の日本鉱業会賞（論文賞）などを受賞してその業績が高く評価され、日本鉱業会や資源素材学会の発展に大きく貢献されました。

社会的貢献としては北海道地方鉱山保安協議会委員、資源・素材学会北海道支部長、国土交通省入札監視委員会委員、道路管理技術委員会委員、道路防災ドクターなどとしてご活躍されました。これらの御功績により、平成 23 年 9 月 25 日、正四位瑞宝中綬章を授与されましたことを併せてご報告させていただきます。

= 日誌 =

10 月

- 1 日 父母懇談会(北見)
- 3 日 秋季入学式
- 5 日 広報委員会
- 6 日 入試企画センター運営会議
- 7 日 入学者選抜委員会
- 12 日 教育研究評議会
- 14 日 就職ガイダンス
- 15 日 父母懇談会(札幌)
- 17 日 役員会
- 18 日 日本政策金融公庫旭川支店との産学官連携の協力推進に関する覚書締結
- 19 日 学生委員会
- 20 日 北海道地区国立大学法人等施設担当理事等・部課長連絡会議、教務委員会
- 24 日 発明審査委員会、入試企画センター運営会議
- 25 日 消防訓練
- 26 日 道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会、入学者選抜委員会、図書館委員会
- 28 日 就職ガイダンス

11 月

- 1 日 推薦入試・帰国子女特別入試願書受付(～8日)
- 2 日 教務委員会
- 7 日 役員会
- 9 日 研究科委員会
- 10 日 推薦入学者選抜実施委員会
- 11 日 学長選考会議
- 16 日 教育研究評議会
- 17 日 キャリア支援セミナー、コミュニケーションスキルセミナー(～18日)
- 18 日 防災・日本再生シンポジウム
- 19 日 父母懇談会(東京)
- 22 日 永年勤務者表彰式、入試企画センター運営会議、学生委員会
- 24 日 経営協議会、役員会
- 25 日 就職ガイダンス
- 26 日 リーダーシップトレーニングセミナー(～27日)
- 28 日 発明審査委員会、推薦入学者選抜実施委員会、地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 29 日 入学試験実施委員会
- 30 日 大学院進学説明会

